

「四季」 25 金魚

学名 *Carassius auratus*
硬骨魚綱コイ目コイ科の淡水魚
学名は黄金色の魚という意味である。

郷土資料から見た「金魚」のあれこれ

お祭りや縁日につきものの金魚すくいだが、柏崎では閩魔市のかかせない風物のひとつである。夢中になってすくった、あるいは金魚すくいのためのおこづかいを子供にねだられた思い出を持つ人は多いだろう。

室町時代に渡来した金魚は、江戸時代中期から飼育が庶民の間でも一般的に広がった。金魚屋の行商はその売り声とともに初夏の風物詩として近年まで伝えられ、「金魚売り」は夏の季語となっている。柏崎でも閩魔市間際になると「天秤棒に金魚を入れた柄のついた桶を、水をこぼさないように上手にかたね」（「柏崎市史資料集 民俗篇」）た金魚売りの姿が見られた。

現在は店舗が建ち並んでいるが、駅前二丁目あたりにはかつて総面積5反歩の金魚田があった。大正7年に金魚屋がはじめられたころはこの付近一帯は蓮田で、田圃の金魚屋として親しまれていた。

参考資料

「柏崎市史資料集 民俗篇」	柏崎市史編さん委員会編	1986	「柏崎歳時記」	山田良平著	1976
「鳥獣虫魚歳時記 春夏」	朝日新聞社発行	1999	「金魚の飼い方」	熊谷孝良著	1996
「日本大百科全書」	小学館発行	1994	「柏崎市街図」	光文社編	1928